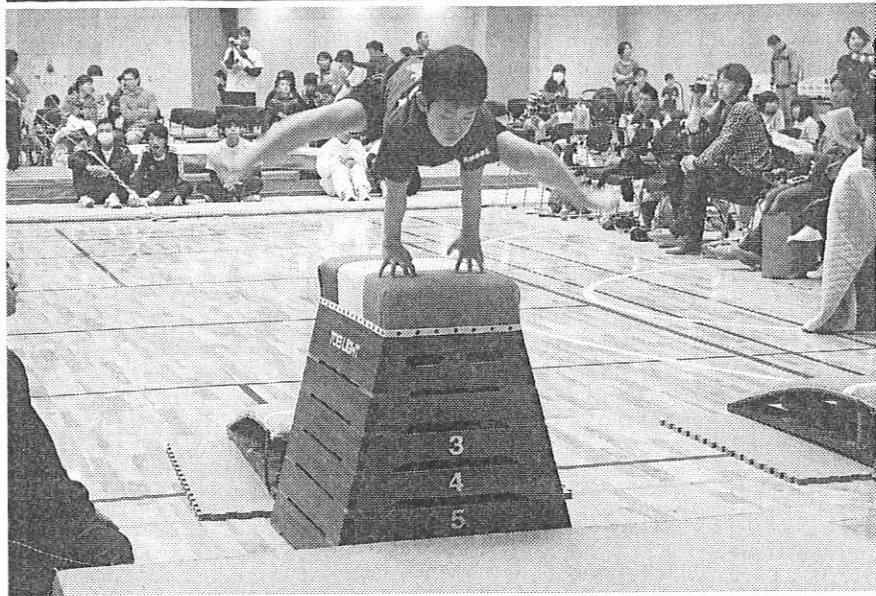


広がれ「田辺の体操」

演技交流会が盛況

田辺市上の山1丁目の田辺スポーツパーク体育館で14日、田辺ジュニア体操クラブ主催の「第26回演技交流会」があった。園児から高校3年生までの約170人が体操競技を披露した。体操の裾野を広げようと今回初めて一般観覧を呼び掛け、保護者を含めて約400人が訪れた。田辺体操教室や明洋中学校、田辺工業高校が協力した。



演技交流会で跳び箱に挑戦する小学生（14日、田辺市上の山1丁目で）

交流会の冒頭、主催者を代表して田辺工業高体操部の柴田達也監督（50）が「失敗を恐れず思い切り演技をしてください」とあいさつした。

その後、田辺体操教室の幼児や小学生がマット運動や跳び箱の演技を披露。白浜町の西富田小2年、湯川純平君は一緊張したけれどうまく跳べて良かった」と話した。

明洋中の体操部はダンスを披露したり、運営を手伝ったりして交流会を盛り上げた。

模範演技では約40人が出演。昨秋の国体で体操少年男子として8位入賞したメンバー、田辺工業高2年の筒井宏樹君がつり輪、1年の高田佑貴君はあん馬と跳馬を披露。国体で日本一になった成年男子メンバーで田辺市職員の柴田快輝さん（23）が鉄棒の演技を披露した。

田辺工業高体操部が、この日のために準備した組体操とアクロバットを合わせた集団パフォーマンスも発表した。交流会実行委員長の川間大志さん（31）は「紀南に体操の素晴らしさを伝えたい。体操はすべてのスポーツの基本。他のスポーツをしなくても習ってもらえれば可能性が広がる」と話す。